

相原中学校の状況

～平成30年度全国学力・学習状況調査の結果から～

平成30年4月17日に3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の結果について、校内において結果の分析を行い、本校のよい点や課題、課題について整理いたしましたのでその概要をお知らせします。

なお、この本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂するのではなく、今後の教育活動に生かし、引き続き生徒一人ひとりの学力向上を目指し取り組んでまいります。保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 教科に関する調査からわかる本校生徒の特徴

概要

- 国語A（基礎的・基本的な知識・技能の習得）・国語B（基礎的・基本的な知識・技能の活用）をみる問題については、本校の平均正答率は全国や神奈川県とほぼ同様の傾向を示しています。
- 数学A・数学Bにおいても、本校の平均正答率は全国や神奈川県とほぼ同様の傾向を示しています。
- 理科においては、平均正答率は全国や神奈川県の平均よりもやや高い状況です。
- 国語・数学・理科ともに、主な特徴や課題については、全国の分析結果とほぼ同様の傾向を示しています（以下参照）。

教科別の特徴

- 国語では、「書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文書を書く」また、「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」においては、相当数の生徒ができています。一方、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと」においては、正答率が低い状況にあります。
- 数学では、「数直線上に示された負の整数を読み取る」また、「単項式どうしの除法の計算」においては、相当数の生徒ができています。一方、「一次関数の意味」、「反比例についてグラフと表の関連付け」「問題解決の方法を数学的に説明する」については、正答率が低い状況です。
- 理科では、「第一分野物理的領域」については、正答率が高い状況にあります。一方「植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること」については、正答率が低い状況です。

2 質問紙調査からわかる本校生徒の特徴（次項参照）

- いじめ防止への意識や人の役に立ちたいと思う生徒の割合は全国に比べて若干低いものの、8割以上の生徒が肯定的に回答しています。一方、地域・社会への改善意欲や社会参加等については昨年度同、様意識が低いことがうかがえます。
- 7割以上の生徒が、1日あたり1時間以上、学校の授業以外で勉強しているようすがうかがえますが（塾等も含む）、一方で、自ら進んで計画的に学習に取り組んでいる生徒は、半数に満たない状況です。家庭での学習の習慣化が望まれるところです。
- 6割強の生徒が、将来への夢や目標を持っていると回答しています。これからの時代は、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していける力を、発達段階を考慮しながら育成していかねばならないと考えます。

3 今後の改善点やお願い

- 学校生活のあらゆる場面をとおして、教師自らも人権意識を高め、生徒に寄り添い、いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成に努めてまいります。
- 学校では今後も、生徒たちの主体的な学びが触発されるよう、さらに質の高い授業づくりを目指してまいります。ご家庭におかれましても家庭学習の習慣化に向けてよろしくお願いいたします。
- ご家庭では引き続き、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、家庭でのルールを決めて実行できるように励ましをお願いします。

参 考 (平成30年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果から抜粋)

